平成３０年度第３回総合教育会議

１　日　　時　平成３１年２月２０日（水曜日）
　　午後３時３０分～午後４時３０分

２　場　　所　富士見市役所　１階　第２委員会室

３　出 席 者　市　長　星野　光弘
　　教育長　山口　武士
　　委　員　五十嵐　洋太
　　委　員　小野寺　巧
　　委　員　簑輪　菊雄
　　委　員　渡部　利枝子

４　署名委員　委　員　簑輪　菊雄
　　委　員　渡部　利枝子

５　説明職員　教 育 部 長　林　みどり
　　教 育 部 長　北田　裕一
　　教育政策課長　鈴木　誠
　　学校教育課長　小林　正剛

６　事務局職員　総務部長　　古屋　勝敏
　　秘書広報課長　　森園　幸則
　　秘書広報課主任　仲澤　大気

７　傍 聴 者　０人

８　議　　事
　（１）富士見市の学力向上について

○星野市長

本日は平成３０年度第３回の総合教育会議ということで、皆様にお集まりいただき、会議が開催できること大変嬉しく思っております。また、日頃から本市の教育に関しまして、多大なる協力を頂戴しておりますことに感謝申し上げます。

さて、昨日から富士見市議会の定例会が開会されました。３月定例会でございますので、平成３１年度の当初予算を中心に議論が始まったところでございます。

その中で、「誰もが住みたい 住み続けたい 選ばれるまち 富士見市」の実現に向けた、施政方針を述べさせていただきました。とりわけ、教育分野においては山口教育長と連携を共に図りながら、確かな教育を目指してこれまで取り組んで参りました「家庭学習応援事業」、「若手教職員への支援事業」、そして教育大綱を踏まえました「命の授業」などを、平成３１年度も継続をさせていただきます。

そして先生方を支援させていただく制度ということで「スクール・サポート・スタッフ」という新たな取り組みも実施させていただく予算にさせていただきました。この事業につきましては、まだ試行でございますので、小学校２校・中学校２校と伺っておりますが、検証を１年間させていただき、その結果を踏まえ、さらに拡充すべき内容かどうか検討してまいります。そして、市長部局の話になりますが、２月１８日に、私ども富士見市と埼玉大学の STEM 教育研究センターと提携をさせていただきました。STEM 教育研究センターは、いわゆる理科系の統合された教育をされている研究室でございます。STEM の S は Science、T は Technology、E は Engineering、Mは Mathematics で、科学・技術・工学・数学の教育分野を総称する言葉です。２月２４日にこの STEM 教育体験会を行います。小学生から中学生まで募集を行い、定員を大きく上回る反響を得ました。ロボットやプログラミングなど、最近話題となっている分野であり、大変大きな反響をいただいたところでございます。実践的な教育を進め、科学技術などの分野において、将来活躍する人材を富士見市から輩出できればと思っております。そして、平成３１年度の予算において、この STEM 教育を本格的に実施する方向で予算を計上させていただいておりますので、来年度事業の目玉になるのではないかと思っております。この実施につきましては、自治振興部が担当いたしますが、学校の先生方にも立ち会っていただいて研究の成果を共有していただき、富士見市の小学生・中学生に還元できるように、埼玉大学と研究を進めていくということですので、ご理解をいただきたいと思っております。年度が明けての総合教育会議の中では、STEM 教育などについてもご案内をしたいと考えております。

そして、今日の総合教育会議では、富士見市の学力向上について委員の皆様方と意見交換をさせていただきたく、このテーマを設定いたしました。市の学

力向上に対する取り組みが、子どもたちの学力にどのように影響が出ているか、学力調査などの結果を踏まえ議論をさせていただきたいと思っております。委員の皆様と情報の共有を図り率直な意見交換ができればと思っております。

この背景にありますのは私自身も市長就任時から、子どもたちの学力向上ということを、私の政策テーマにもさせていただいております。この点につきましては山口教育長ともしっかりと連携し進めさせていただいているところでもございます。

また、文部科学省が行います全国学力調査テストという一つの数字が出ていますが、ここ２年で埼玉県の学力調査テストも始まっております。前埼玉県教育長の関根先生が在任中から県学力調査テストについては、大変熱心に取り組んでおられた調査です。他県では、この埼玉県の方式を取り入れていきたいということで、さらに大きく広がりを見せております。それだけ子どもたちの学力を測れる、または、今後の研究にしっかり活かせるテストだということを実感したところでございます。今日はこのテーマについて、議論をさせていただければと考えております。よろしくお願い申し上げます。

結びに、富士見市教育委員会と市長部局が力を合わせて問題意識を共有させて頂いて、富士見市の教育政策を前に進め、本日の会議が有意義なものとなりますことをご期待申し上げます。まだまだ寒い日が続き、これからも寒の戻りもあろうかと思いますので、お体にはご留意いただきまして、冒頭のあいさつとさせていただきます。

どうぞよろしくお願いします。

○森園秘書広報課長

ありがとうございました。

本日は、説明員として林教育部長、北田教育部長、鈴木教育政策課長、小林学校教育課長が出席しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以後の進行につきましては、星野市長にお願いいたします。

○星野市長

それでは、会議に移らせていただきます。本日の会議録署名委員の指名をさせていただきます。簑輪委員と渡部委員を指名させていただきますので、よろしくお願いいたします。本日は、冒頭申し上げましたとおり、「学力向上について」を議論させていただきたいと思います。

富士見市教育振興基本計画の基本方針として、「学びあい、高めあい、夢と希望を育む教育の推進」を施策の一つとしております。富士見市では、家庭学習応援事業や若手教員への支援事業など、他の自治体ではおこなっていない独自の取り組みを行っています。こうした、子どもたちや先生に対して手厚い支

援をしていくことで、子どもたちの学力向上を目指し、富士見市の教育が益々良くなったと感じてもらいたいと思っております。そういった市の学力向上に対する取り組みが、子どもたちの学力にどのような影響が出ているかということを教育委員の皆様と情報共有をしたいと思います。委員の皆様から、現在取り組んでいる事業や、学力調査の結果、今後の事業展開を含め、率直な意見を頂戴できればと思います。

それでは、まず富士見市の学力向上策、そしてその成果について、小林学校教育課長より説明をお願いいたします。

〇小林学校教育課長

お手元にある資料をご覧ください。まず一つ目は市長からも話があったように、埼玉県学力学習状況調査についてです。こちらは他県からも注目が集まり、各都道府県に波及しております。その埼玉県学力・学習状況調査を分析し、それぞれの学校の子どもたちの実情を分析し、それに対しての課題解決に向けて取り組んでいるところでございます。その調査の中で質問紙というのがございまして、例えば朝食を食べているとか、そういう部分も調査をさせていただいています。テストの結果と質問紙がリンクする部分があるのかどうか、様々な視点で各学校が取り組んでいるところでございます。その結果を踏まえ各学校を分析し、我々指導主事が各学校に訪問し、その折に学校の課題解決に向け、指導や助言をさせていただいています。

また、埼玉県の西部教育事務所からも、様々な資料が来ておりますので、それを各学校に発信し各学校の中でそれを参考にして校内の研修で活用したり、課題解決へ向けて取り組んでいただいています。

その中でも、やはり一番は学校現場の中での授業改善が一番大切であろうということで、各学校が授業の改善に今着手しているところでございます。特に本市では若手教員育成指導員の配置をしております。おかげさまで２年目から５年目の若手教員は、指導していただく先生方の今までの実績や、様々な経験からいろんな視点にわたりご指導いただいていますので、指導力・授業力に限らず保護者との対応、あるいは子どもへの対応と様々な部分で教師の資質向上に取り組んでいただいております。後程説明させていただきますが、若手教員のクラスの学力が非常に向上しているというような結果が表れております。また、若手教員だけではなくベテランの教員、中堅の教員もいますので、そういう先生方にも指導力の幅を広げるという視点から、毎年本市の方では授業改善に向けた研修会を行っております。本年度は中村祐治先生をお招きしまして、中学校区を中心とした各会場で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、ご講演をしていただいております。各学校は指導していただいた点を持ち帰り、取り組んでいただいているというところでございます。

また各学校におきましては、教育課程の見直しにも取り組んでおります。授業の配列や、授業の取り組み方、教材・教具の研究等を踏まえて、年間の指導計画等の作成も進めているところでございます。その中でＰＤＣＡサイクルを用い、それぞれ課題はどこなのかということを共有しながら進めているところでございます。

また、家庭学習等がやはり大切であろうということで、本市としては、学力向上プロジェクトチームが問題を作成し、チャレンジ問題・思考力アップ問題ということで、各学校の授業の中で取り入れていただいたり、あるいは家庭学習の中で活用していただいたりしているところがございます。こちらは本市の中心的な骨格になるのではないかと思います。

続きまして、平成３０年度の埼玉県学力学習状況調査の結果でございます。埼玉県全体の１年間の伸びより、富士見市の方が伸びている部分がございます。そうした部分が、より今後増えていく事が一つの目標になり、また各学校がそれに応じて取り組んでいただいているところでございます。

今度はそれぞれの学校ではどうだったのかというところでございます。小学校１１校の国語と算数の学力を分析したところ、多くの子どもたちが学力を伸ばしていることになります。残念ながら伸びなかった児童もいるわけではありますが、この伸びなかった点はどこなのか、そこを分析していくことが大事であるかと思っております。同じような形で中学校の国語、それから数学・英語です。特に英語については、市内６校とも学力を伸ばした生徒の割合が大多数いるということで、各担当教諭が創意工夫を取り入れた授業をされている表れではないかと思われます。

続いて、埼玉県学力・学習状況調査の若手教員育成指導員を配置した若手教員学級と市全体の比較でございます。市全体の伸び幅よりも若手教員育成指導員を配置した学級の伸び幅の方が伸びているということです。先ほど申し上げましたように、ベテランの先生方あるいは退職された校長先生・教頭先生方にお力添えをいただいて、その指導方などについていろいろと細かい部分をご指導頂いた結果がこういうふうに表れているのだと思います。

今度は具体的に、どのような授業の改善があったのかということで、まずは針ケ谷小学校の取り組みでございます。昨年度、顕著に伸ばしたクラスがあるということで、その先生の授業を、他校の先生方にも見ていただきました。それをまた各学校に持ち帰って頂いて、研究を進めて頂いているというところでございます。小学校では、特にユニバーサルデザインの視点が大事であると言われており、板書の仕方、発音の仕方など様々な研究を進めているところでございます。新学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びを重視しており、子どもが主体的に取り組める授業方法の工夫が必要であるということで、子ども同士で学びあうペア学習・グループ学習など、自分の言葉で相手に伝え、自分の考えや他人の考えを参考に学習を深めていこうという取り組みを進めてい

ます。各教科において、すべての授業ではありませんが、授業の出発点、到達点を明確にし、今回の授業で子どもたちが、何がわかったのか、何が身についたのかというのをしっかり明確にして行くことを重視しています。どの部分でどの教え方が効率的なのかということについても研究を進めており、それぞれに応じた学習方法を取り入れているところでございます。また朝自習の時間などで、プリントや小テスト、復習問題を重ねて取り組んで、基礎学力の定着に取り組んでいるというところでございます。

同様に本郷中学校も今年度発表していただきました。板書計画や、授業ノートの取り方を中心に指導し、家庭での学習をノートで提出してもらう取組みを行っています。また授業の規律ということで学習の５箇条という形で取り組んでいます。資料中段の学力の伸びの状況を見ると、全ての教科で学力が向上しております。学力向上に向けた取り組みを、学校が一枚岩になって取り組んでいるという表れと認識しています。また学校での取り組みなどを、様々な学校だよりや職員室だより等で情報発信をさせていただき、家庭・地域にご理解を賜っているというところでございます。本人の学習意欲を高めるということで、地域の方のご協力を得ながら、色々な講演を聞いたり、様々な体験活動をしています。

また、県内の学校で学力を伸ばしている学校がどんな取り組みがなされていたのかということのご紹介が次の資料です。こんな取り組みが効果的でしたということで、授業・家庭学習・学校全体での取り組み、学年・学級での取り組みなどを紹介いただいています。各学校にも発信しておりますので、各学校の中で既に取り組んでいるものもあれば、また改善や工夫の参考にしている学校もあります。このような観点で、本市の学力向上、子どもたちの基礎基本の定着をベースにしたうえで、主体的・対話的で深い学びになる学習効果が得られるように取り組んでいるというところでございます。

○星野市長

ありがとうございます。学校教育課長より、現在取り組んでいる、学力向上策、その結果について資料を用いてご報告をいただきました。まずご質問などがありましたらご発言ください。

○簑輪委員

２点質問いたします。最初の総合教育会議資料の一番下のチャレンジ問題及び思考力アップ問題のところですが、チャレンジ問題の方で中学３年生は英語がないのはどうしてかというのと、思考力アップ問題は「小１から中」と表記していますが、これは全体という意味でしょうか。

○小林学校教育課長
　まず、チャレンジ問題の中学３年生の英語についてはこれから研究を進めてまいりたいと考えています。思考力アップ問題については、学年関係なくトータルと考えていただければと思います。

○五十嵐委員
　埼玉県学力・学習状況調査の質問紙は、他にどんな項目がありますか。

○小林学校教育課長
　多岐にわたりまして、睡眠時間、家庭学習の時間、新聞を読んでいるかどうかなどの生活面、学校で話ができる友達がいるかどうかや、塾に行っているかどうか、学校生活の中で楽しみを持っているかなど、かなり幅広く質問項目がございます。

○小野寺委員
　針ケ谷小学校と、本郷中学校で結果が大変良くて、そうなった取り組みについて発表をされ、その発表の場にほかの学校の先生方が来てお話しを聞いたということでしたが、自分の学校でも取り入れられるものがあれば取り入れていくということが大切だと思います。その辺の実際に取り入れている学校等の状況を学校教育課は掴んでいますか。

○小林学校教育課長
　これはプロジェクトの一貫で、各学校の授業を先生方に情報発信して、授業当日も参加していただいています。授業が終わった後、研究協議会を行い、それぞれの学校同士で情報を密にして、各学校で既に取り組んでいる、あるいは改善が必要という情報を共有し、それを各学校が持ち帰り、参考に取組んだ結果を検証中でございます。

○簑輪委員
　埼玉県学力・学習状況調査活用リーフレット小学校版の２枚目、一番上の左側。埼玉県学力・学習状況調査復習シートとありますが、これはどのようなものですか。各学校にこのシートは常備されているようなものでしょうか。

○小林学校教育課長
　県のホームページの中に復習シートが掲載されています。埼玉県学力・学習状況調査の類似問題のようなものです。これは、ホームページからダウンロードできますので、活用することができます。

○星野市長
　資料の針ケ谷小学校と本郷中学校の取組みで、両方とも１ページに学力の伸びのグラフが掲載してありますが、この「貴実施主体」というのは、針ケ谷小学校を表していますよね。この一本一本色分けされているものは何を表しているものでしょうか。

○小林学校教育課長
　生徒が属する学力のレベルを表しています。最上位のレベルに属している生徒が青、学力上位２５パーセントの子どもたちの集団が上から２番目の赤線で表しています。それが平成２８年と平成２９年を比較しどれくらい伸びているのかという表です。

○星野市長
　針ケ谷小学校の取組の２ページ目ですが、学校全体の取組の２番「算数プリントを導入」とあります。印刷したプリントを分類した棚を廊下に配置したとありますが、どのようなものでしょうか。

○小林学校教育課長
　これは職員室の前の廊下に棚を置き、各学年のブロックごとに算数プリントを入れてあります。子どもたちがいつでも取り出せて、そのプリントを自ら解いて、先生に見せて答え合わせをしてもらう仕組みです。

○星野市長
　あくまでも子どもたちの自主的な取り組みということですね。

○北田教育部長
　針ケ谷小学校の取組１ページ目に、実際に算数プリントを入れている棚の写真を掲載してあります。

○小林学校教育課長
　先日、指導訪問があった際にも、子どもたちが実際にプリントを取りに来ていました。話を聞くと、「楽しい」「頑張っている」「丸が付くと嬉しい」といった感想を述べていました。

○星野市長
　本郷中学校の一枚目、ノートの活用の仕方やノートの取り方の指導とありますが、これは教科の先生がそういった指導を具体的にするのですか。

○小林学校教育課長
　はい。中学校の場合は教科部会というものがありまして、教科の中で３学年それぞれノートの取り方を統一して教えています。例えば、今日の狙いは何か、大事なところを青や赤で囲もうとか、あるいはスペースを作ろうとか、あとでノートを振り返った際に、見やすくなるように、何を学習したかがわかりやすいように、ノートづくりを進めています。また、ノート点検も行っています。子どもにとってノートは参考書の一つです。自分なりの見やすい参考書という視点に立って、子どもたちがわかりやすいように作成しています。ただ、そこには最低限度のルール作りをきちんとしようということで、取り組んでいます。

○星野市長
　今説明していただいたノートというのは、各教科で子どもたちが指導を受けながらノートを取っているものということですね。本郷中学校の２ページ、学校全体の取り組みのイで、家庭学習ノートの取り組みと評価というのは、また違うノートですね。

○小林学校教育課長
　すべてを把握しているわけではないですが、家庭学習のテストの復習だけを行うノートや、あるいはそれぞれの小テストをまとめたノートを作り、そのノートを提出させているということです。

○星野市長
　今紹介された算数プリントの導入ですとか、家庭学習ノートの取り組みやノートの書き方の指導などは、各学校独自のものであり、共有の努力はされていると思いますが、まだ、すべての小中学校が等しく取り組んでおられるということではないですね。

○小林学校教育課長
　はい。そういうことになります。各学校独自に、課題などを研究し、それぞれが一年間検証を積んで、必要な部分や改善が必要な部分をふまえ各学校が取り組んでいます。その各学校で結果が出たものをいろんな学校に情報発信をさせていただいています。

○星野市長
　それが、こちらで示してもらった、埼玉県の学力・学習状況調査のこういったテスト結果に反映されて、伸びが顕著であった針ケ谷小学校と本郷中学校が発表したということですね。例えば水谷東小学校については、平成３０年度は

算数も国語もかなり伸びているとのことですが、水谷東小学校はまだ分析中なのかどうかはわかりませんが、何か特色のあるものはこういうものというのが、今分かっている範囲であればご紹介いただければと思います。

○小林学校教育課長
　水谷東小学校も今年発表していただいています。中学校は本郷中学校、小学校は水谷東小学校に発表していただきました。小学校では、各学校で発問の仕方・子どもに考えさせる時間の確保、ノートの取り方、板書の仕方等、様々な点で研究をされているということです。

○簑輪委員
　本郷中学校の授業規律「学習の五ヶ条」の内容を教えてください。また、全クラスに貼り出しているという状況でしょうか。

○小林学校教育課長
　学習の五ヶ条は「１．学習する場を整える」「２．チャイム２分前に用意を終えて着席する」「３．授業のあいさつをしっかりと行う」「４．姿勢を正し、授業に集中する」「５．話をよく聞き、元気に発言する」という内容です。全クラスに貼り出しています。

○星野市長
　個々の資料を見させていただいて、埼玉県学力・学習状況調査の研究や、また各学校から上がってきたものの取りまとめは、各学校からの学力向上プロジェクトチームが核になって行っているのでしょうか。体制の説明をお願いします。

○小林学校教育課長
　学力向上プロジェクトチームは、各学校から校長や先生、また学力向上担当の指導主事などで構成されており、様々な学校でどのような取り組みをしているのか、特に学力向上の取り組みはそれぞれの学校が常に研究をしているので、こういう研究結果をもとに、共有できるものは共有し、あるいはまだ研究途中で改善が必要であるといった情報も交換しています。また、それぞれ学校の先生は先生方の研修がありますので、そこで、情報を密にしています。

○星野市長
　一通りご質問をいただきましたので、ご意見でも結構ですのでご発言をいただければと思います。

○簑輪委員

針ケ谷小学校の取り組みで算数プリントの件についてです。既習の事項を改めて復習してテストに臨むということは、ペーパーテストの点数を上げるという点で大きな効果が得られると思います。また、前の学年の復習をする児童が多くなってきていることはいいことだと思います。針ケ谷小学校の場合は強制でやっているのではなく、子どもたちが主体的にやっていることは素晴らしいことだと思います。そういう自発的な取り組みを学校で仕掛けていければ、アクティブラーニングとして、成果がでてくるのではないかと思います。

先日、研究授業の発表を見させてもらいましたが、数年前の授業と比べると、先生方が工夫を凝らして授業を行っていて、授業改善が進んできていると感じました。個人的なイメージですが、授業に必要な条件があると思います。一つは教える先生と、学ぶ生徒が目標と手段を共有して認識していくこと。それからもう一つは学んだ後、達成の評価も双方で行うということが必要だ思います。教師が点をつけるだけではなくて、子どもたちが自分たちでここがわかったなどと評価することが大事だと思っています。それが実際に仕組みとなっているなと感心しました。授業の最初に今日の授業では何を学ぶか、まずこれを提示しています。それを確認して、その目標に向かって、手立てとして今まで学んだことを使って解決できないかということを考え、後は隣同士やグループ討議で主体的な学習ができていると思います。最後にその振り返りということで、自分の言葉で学んだことを、他人の指示で書かせるのではなく、自分で書いている。これが重要だと思います。先生が一律に言って書かせてしまうというのではなく、自分で学んだ到達点を生徒に評価して書かせるという、そういった授業の改善がここ数年でできてきている印象を強く持ちました。

○小林学校教育課長

ありがとうございます。今お話しいただきました、授業改善で指摘されているポイントとして、子どもがわかった、できたという実感を与えるためには何が必要なのかということについて研究を進めなければなりません。子どもたちに今日の目標を達成させるために、どこでどういう手法を使っていくのか、ペア学習なのか、グループ学習なのか、個人で考えさせるのか、あるいはまた違う方法があるのかということを、教員は様々な手法を考えます。その手法を増やすことが一つの授業改善につながっていくのではないかと考えています。今お話しのあった、最後のまとめも今までは教員が「今日の授業はこうでした」と指示していましたが、そうではなく、子どもの言葉でまとめさせ、それを子どもたちで共有していくことが大事であるという指摘を受けていますので、そのような授業改善を進められるように我々も各学校に働きかけているところでございます。

○星野市長

若手教員育成指導員配置事業ということで、若い先生のクラスの成績の伸びが良かったということでした。こういう調査が進んでくると、「この先生はここが強いけれどもここが弱い」とかそういったことが分かってくると思います。この先生には「こういったものをもっと身につけてもらえれば更に良くなる」というように、先生方の力量を上げるための指導の材料として、埼玉県学力・学習状況調査を活用できるところまで持っていけるのでしょうか。またはそういう考え方というのはどうなのでしょうか。

○小林学校教育課長

西部教育事務所の協力を得まして、指導訪問というものを２年に１回実施しています。各教科の授業公開と研究授業を行ったところには、西部教育事務所の指導主事を含め、学校教育課の指導主事が教科の指導に当たっています。わずかな時間ではございますが、先生方の良かった点、改善が必要と思われる点などを各指導主事から、担当の職員に指導しています。ただ、すべての学校に指導訪問するわけではございませんので、その都度学校へ行く機会や、西部教育事務所等の指導訪問に限らず研究授業などや、あるいはその他の研究をするので我々指導主事が指導者として呼ばれた場合などに、学校に行ってそれぞれ個々に指導しているケースがあります。ただ、すべての学校のすべての先生を平等にという点では、その時間がございませんので、何かの機会になるべく先生方の指導力・技術力向上に向けた支援をできたら、これは大変素晴らしいことかなと思っております

○星野市長

子どもたちの評価が数字としてクラスごとに出ていますので、数字が良くなかったクラスの先生が、個々の改善が必要だと本人が自覚し、向上心をもっていて人に聞ける先生であれば良いと思いますが、そうでない先生もいらっしゃると思います。こういう先生に対しては、少なくとも数字として出ている以上は校長や、教育委員会として指導・改善を促していく仕組み・仕掛けはどうなのでしょうか。

○小林学校教育課長

各学校におかれましては、校長先生・管理職が若手に限らず授業見学を行っており、気づいた点・指導方法の改善点は管理職から指導してございます。学校教育課としては、どのぐらいの割合で授業を回っているかは把握できておりませんが、基本的には授業力向上に向けて、支援策がこれから適宜必要な部分が増えてくるかなと感じています。

○北田教育部長

学校では市役所と同じように、教職員人事評価システムというものがあります。校長・教頭などの管理職が、一人ひとりに対して自己評価シートを年度当初に提出させまして、それをもとに中間評価・また最終評価という流れで、一人ひとりの先生に対しての評価を行っているところでございます。自己評価シートを評価するのは管理職ですが、そのためには管理職が一人ひとりの先生の仕事内容・授業力を日頃から見ていないとできません。校長はそれを努力してやっています。具体的には、授業や年に数回ある授業研究会を計画的に見に行っております。先生たちは今年の目標を具体的に立てて校長と面談を行っています。それを最終的に評価した結果が学校教育課に上がってきます。それを県に提出しています。その時に、教育長と部長が校長と面談をして、学校全体の評価と、教職員などについての面談をさせていただいているところです。その他に今課長が言ったように、指導訪問であるとか指導主事による授業の指導を行っております。また、非常に助かっているのが若手教員育成指導員です。校長が必ず今までは見ていたのですが、その校長の仕事を若手教員育成指導員の方たちが担っている側面がございます。その結果が、先ほど出した資料４の数値に表れているのかなと思っているところです。

伸び率と書いてある、平成３０年度と平成２９年度の平均値の差の平均と書いてありますが、平成３０年度の小学６年生のときの集団の中で平均点が伸びた率と、平成２９年度の小学５年生のときに伸びた率、その比較ですので、わずか０．何パーセントですが、すべての学校でその平均は上がっているというふうに捉えられるということになります。

○星野市長

私は先生方にも、さらに力をつけてもらいたいと思っています。今データで見ているものは、生徒たちの評価を見させてもらっていますが、その評価を踏まえ担任の先生に力をつけていただくことが重要だと考えていますので、そういう材料としてもお使いになるのかなというところを確認させていただきました。他にありますでしょうか。

○簑輪委員

先生たちの一番大事なことは授業力だと思いますので、そういう点では、いろいろ改善できるところは取り組んでいただきたいと思います。

今の話の焦点となった若手教員育成指導員についてですが、若手教員を指導されている元管理職の先生方のいろんな努力があったと思います。しかし、これが優位な差と出るかどうかは、また微妙な視点があるのだろうと思います。例えば平均正答率は同じでも、伸び幅が伸びているところもあれば現状維持のところもあると、そういう見方もできると思います。一つがいいからそれで良

いというところはまだまだ判断できないのではないかなという見方をしています。

それともう一つ市全体の伸びと比べて若手教員の学級の比較をしていますが、市全体に若手教員の学級を入れないで、若手教員の学級以外と若手教員の学級を比較してみても良いのではないかと思います。そういったところで、優位の差が出るのか、出ないのかというのを見たほうがよいと思います。

それから成果が出ている若手教員を指導されている先生方が１年間を通じてどんな方策で指導した結果、このテスト結果に反映されたという主要な要因を掴んでおいた方がいいのではないかなと思います。どんな指導があったから、この埼玉県学力・学習状況調査に反映されたのか、その辺をもう少し細かく仕分けして、授業内容の改善に活かして行けたらいいのではないかと思いました。

○星野市長

最後に山口教育長から一言ずつお願いできますか。

○山口教育長

学力向上を評価するというのは、一つの方策が一つの根拠とならないところを前提条件として理解しなければならないと思います。同じ条件の畑で、肥料を替えたらこっちが伸びてこっちが伸びないということが明らかな状況であれば、その教員の指導が明らかにこの学力を伸ばしていると評価できますが、与えられているクラスの条件・学年など、様々な状況があります。例えば、高学年への指導が向いていて力がある先生が、低学年を持ったら同じように伸ばせられるかというとそうではありません。今回の調査の結果、伸びたことは事実ですが、その伸びた要因が、１つの要素・２つの要素で伸びていると判断できないところを理解しなければなりません。指導の要素というのは、教科の指導・教科の専門性や、指導方法の優れた点というのはもちろんありますが、人間が人間に教えるので、人への関わり方の上手さの要素も大きいです。ただ、これは数値化することはできません。結果として、このクラスが伸びているというのはありますが、その先生が一つの要素が良いから伸びているかというのではなく、様々な要素があるということも理解しなければなりません。数字を結果で見て、課題を把握し、改善策をそこから見出します。伸ばした先生には伸ばした要因があるからそれを学ぼうというのはありますが、それは必ずしも１つの要因ではないことは理解しなければなりません。様々なことが絡み合っているので、その中からこういうことが要因になっているというのを整理する努力はしているということを理解していただければと思います。いずれにしても、ここで急に学力向上を謳っているわけではなく、過去からの積み上げの結果でもございますし、これから先も伸びているからと甘んじることなく、さら

に伸ばすという努力はしなければなりません。伸ばしている学校やクラスの担任の先生方の良いところを全市に浸透させていくのは教育委員会の役割かと考えています。

○簑輪委員

尾木直樹さんの本の引用になりますが、学校だけでは解決できない問題も、学力問題に関してはあると思っています。それは何かと言うと家庭の経済状況です。例えば小学校６年生の算数Ｂの正答率は、年収１，５００万以上の家庭の子は７１．５パーセントだったが、２００万円以下の家庭の子は４５．７パーセントで、差が２５．８ポイントと歴然とした差があるというデータもあるそうです。目の前にいる子ども達を全員引き上げていくというのは、先生の力だけではできないという問題も内包されているのだろうなと思っています。ただ、だからといってそれを仕方ないと済ましてはいけないので、出来る限りのことを授業でフォローしていっていただきたいと思います。

あと、針ケ谷小学校が最初に成果を上げて、全市にお知らせをしたのですが、本郷中学校もまた凄く頑張っているなという印象があります。そういった状況の中で行政サイドとして一番重要だと思っているのは、一番遅れている学校に対して、底上げのためにどういう支援が必要かということだと思います。授業改善を中心にしていきながら家庭の状況も鑑みて、様々な手立てを考えて市全体が底上げされながら、相対的に学力が向上していく取り組みができればさらに良くなっていくと思っております。

○小野寺委員

感覚的な話にはなりますが、ここ数年、学校訪問・授業見学をさせていただいて、学校の雰囲気・学級の雰囲気が非常にいいと感じることが多くなりました。３０分から１時間程度の短い時間ですので、１００パーセント見ることはできていませんが、先生たちと子ども達との関係が、非常に温かいと感じます。礼儀がある中でも、和やかで子ども達も非常に明るくて、良い関係が築けていると感じられる光景がたくさん見てとれます。確かに高い指導技術は必要ですけれども、その基になるのはやっぱり先生と子ども達との関係、これが基盤にあって勉強もする気になるし、運動もする気になるし、それによって伸びていくのだろうと感じます。その基盤がここ数年できてきていると感じています。あまり焦らずに、そういう状況になってきているので、長い目で見て、必ず色々な面で先生方も子どもたちも向上していってくれると期待しているところです。

○五十嵐委員

データはクラスの平均で出しているので、全体を見て全体を伸ばすというのは素晴らしいとは思いますが、下がってしまっている生徒を伸ばすことも大事なのかと思います。もちろん今も取り組んでいると思いますが、そういった取り組みも必要だと感じます。

教育委員会では学校以外でも様々な取り組みをしていると思いますが、もっとそれを発信してもらいたいと思います。理想を言えばそうした取り組みに全員が参加できるようなシステムが取れればいいと思いますが、現実的には難しいので、そういったところに近づけていけば必ず結果として残るのかなと思います。

○渡部委員

この結果が出たということは、それなりに評価できると思いますが、数字で一喜一憂してしまうと、先生の評価を捻じ曲げてしまうのではないかと感じました。

あと、授業を見学させていただく機会がありまして、一番後ろに子どもが二人座っていて、その子たちを見ていて感じたことがあります。先生が課題を出して、一人の子はすぐ答えが出ましたが、隣の子はなかなか出ませんでした。それで、先生が「あなた方に１０分時間を与えるから、もう１回考えてみて」「それで答えが出なかったらもう一度みんなで考えてみよう」と先生はおっしゃっていました。こっちの子は一生懸命書いたり消したりしていましたが、こっちの子はもうできてしまっているので、できている子にとってその１０分はやっぱり有意義な時間ではないと思います。ですので、能力別のクラス編成も教科によっては必要なのではないかなと思います。

もう一つ気づいた点は、なかなか答えが出なかった子どもたちは、ノートの取り方が遅いということです。どうして取り方が遅いのかなと思って見ていたら、鉛筆の持ち方が悪いということがわかりました。限られた時間の中で、課題をこなしていくことは、その子の能力につながると思うので、鉛筆の持ち方から指導していかないと、子どもは伸びていかないのかなと思いました。

もう一つは、親を巻き込まないと子どもは伸びないと思っています。「うちの子は家業を継がせるから勉強なんていい」「職人にさせるから勉強より、技術のほうが大事だ」という親もいるかもしれないけれども、「教育というのはその子の財産になる」というのを親に理解してもらうことも必要と思います。また、今の小学生・中学生に「あなたの財産になるから、勉強を一生懸命やりなさい」というのを教えていくことも大切だと思います。その子が大人になって、子どもができたときに、親が学問に興味を持っているのだから、子どもたちも一生懸命取り組んでくれるのではないかと思います。

○星野市長

最後に、こうした形で一生懸命色々な取り組みをしていただいていることに感謝を申し上げます。市長として、学校環境も含め、学力向上に資する様々な要因を予算化するということについては、責任をもって関わっていくつもりでございます。もう一つは、今も各委員からお話が出ましたが、やはり保護者の皆さんと学校の考えが一つになる、または子どもにしっかりと目を向けていただくという環境を促していく必要があると思います。親の所得の差が学力の差になってはいけませんので、そこを我々が子どもの貧困対策や子ども未来応援センターの相談事業などを通じて補いたいと思っています。

もう一点は、今日は学力にテーマを絞らせていただきましたが、様々な学校のイベント、学校で行く小旅行など体験的な部分は、より一層知的好奇心がもてるよう、我々が提供すべき事柄だろうと思っています。学校や市が、そういった子どもたちの環境を作っていくということも、私が責任をもって関わっていく一つの要素ということを最後に申し上げさせていただきます。

今日は、学力向上策ということで皆さんのご意見を頂戴しました。難しい案件ではありますが、今私が申し上げた通り教育委員会・市長部局が一丸となって頑張っていきたいとこのように考えております。また時々総合教育会議の中でこのテーマが出てくるかもしれませんが、その際にはまたご指導いただきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

冒頭の挨拶で、一つ抜かしてしまったので追加で申し上げさせていただきます。平成３１年度の予算の中にSTEM教育というのをご紹介したのですが、もう一つは幼稚園に対する補助金を新設する予定でございます。幼稚園の経営者の皆さんに子ども達に対する幼児教育を充実させて欲しい、また我々としても特色ある幼児教育に光を当てたいと思っています。この１０月からは子どもたちの幼児教育に対する無償化が保育園・幼稚園で始まる方向で動いていますので、そうした意味からすると、やはり幼稚園の経営者の皆さんも、より一層力を入れていただける材料になるのではないかと思っています。所管は子ども未来部ですが、教育委員会、特に学校教育課長をはじめ教育委員会の皆さんとも連携し、この事業を平成３１年度から進めていきたいと考えております。またこれについても議題にさせていただきたいと思います。

本日はこの議題に対しましての、みなさんの貴重なご意見をいただきまして本当にありがとうございます。私もご意見を頂戴していたものを施策に反映させて参りたいと思います。本日の総合教育会議の議事を終わらせていただきます。ありがとうございました。